

# カナダ日本人漁業史研究をめぐる展望と課題

## ——近年における北米の成果を中心に——

河原典史

### I. はじめに—カナダへ渡った日本人—

明治維新を迎えた日本では、海外へ活躍の場を求める人々が生まれた。当初では、官吏や留学生など限られた人が海を渡った。やがて、多くの人々が移民として海外へ雄飛していった。その要因として、耕地が少なく資源の乏しい日本の経済的な困窮が指摘される。度重なる災害や飢饉など、農業生産の低下も移民を輩出させた。また、どの地域へ、いつ移民が輩出されたかについては、当該地域での移住要因の発生時期を考えねばならない。さらに、移住先については海外における労働力の需要が検討される。それらの輩出 (push)・受容 (pull) 要因に関わる諸制度の整備、ならびに先駆的移民の経験談などの情報伝達も見逃せない。このように、さまざまな社会的・経済的要素が複雑にからんで、多くの日本人は海を渡ったのである。

ハワイ、アメリカやブラジルなど、南北アメリカ大陸への日本人移民に関しては、歴史地理学からの研究もみられる。代表的なものとして、先駆的な角井<sup>1)</sup>をはじめ、矢ヶ崎<sup>2)</sup>、石川<sup>3)</sup>、杉浦<sup>4)</sup>、飯田<sup>5)</sup>などの研究があげられる。その他、歴史学や社会学からのアプローチも検討されねばならない<sup>6)</sup>。そのなかで、北米大陸のカナダへ移った人々も少なくない。最初にカナダへ移住した日本人は、長崎県南高来郡口之津 (現在の長崎県南島原市) 出身の永野萬蔵<sup>7)</sup>である。1877年 (明治10) にイギリス船の水夫として渡航した彼は、カナダ西岸に位置するブリティッシュ・コロンビア州 (以下、BC州) のニュー・ウエスタンミンスターでサケ漁業に従事し、やがて州都・ビクトリアで美術商を営んだ。1888年 (明治21) には、和歌山県日高郡三尾 (現在の和歌山県美浜町) 出身の工野儀兵衛がフレーザー川河口のスティープストーンに渡った。そして、彼の呼び寄せにより和歌山県から多くの人びとが渡加した<sup>8)</sup>。彼らの多くはサケ缶詰工場に雇用され、漁業ライセンス (漁業権) を取得してサケ刺網漁業に就いた。一方、1891 (明治24) 年には神戸移民会社によって広島県、翌年には福岡県からバンクーバー島中央部のカンバーランド炭鉱へ契約移民が送られた。また、1896年 (明治29) 以降では、水害によって滋賀県東部からも多くのカナダ移民が輩出された。おもに彼らはBC州最大の都市・バンクーバーの港湾地区にあるヘイスティング製材所に勤め、やがて隣接するパウエル街で同胞を顧客とする商業・サービス業に進出する者が多かった。1907 (明治40) 年には、東京移民合資会社がカンバーランドへの炭鉱夫と、カナダ太平洋鉄道の鉄道保線工として契約移民を送出した。

このような先駆者の活躍とその後の連鎖移住などによって、日本の出身地とカナダでの職業との関連性が読みとれる。「近州ソーミル、熊本ヤマ、死ぬよりましかなヘレン獲り」という俗言は、第二次世界大戦以前のカナダにおける日本人の就業構造を的確に表わしている。つまり、滋賀県 (近江) 出身者は製材所 (sawmill) に勤めることが多く、そこへ運搬される木材を提供するために山奥で伐木業、ならびに鉱業や鉄道保線業に従事するのは熊本県出身者が多かった。慣れない機械操作、

倒木や落盤、そして雪崩などによって命を落とすのなら、ニシン漁 (herring fishing) やサケ漁などの漁業に就くほうがよい、と揶揄したのは和歌山県出身たちであった<sup>9)</sup>。

ハワイから大量の日本人がバンクーバーへと転航を試みたため、1907年9月8日、白人によってパウエル街が襲撃された。その結果、林<sup>ただす</sup>董外務大臣とロドルフ・レミュー連邦労働大臣との間で交渉が行われた。いわゆるレミュー協定によって、その後には原則として年間400名が移民数の上限とされた。日本からカナダへの渡航は、「呼び寄せ」という形態へ落ち着き、郷里に残してきた両親や妻子、とくに独身男性に対しては写真の交換によって婚約・婚姻後に新妻が渡加する「写真婚」が多くなった。そして、1910年代になると日本人社会には、家族の形成と定住化がみられるようになった。出稼ぎ的な渡加であった日本人移民は、それまでのサケ缶詰産業、伐木・製材業や鉄道保線業などでの肉体労働だけでなく、バンクーバーを中心とする都市における商業・サービス業へも展開し、新たな日本人社会が形成されたのである。

このようなカナダ日本人移民史について、先にレビューされたものとして飯野<sup>10)</sup> や Shibata, Y.<sup>11)</sup> があげられる。前者ではカナダの行政文書からみた政治・経済史的研究、後者ではカナダで発行された貴重な一次資料の紹介が特徴である。ただし、両者の発表からすでに20年以上が経過している。そこで本稿では、第二次世界大戦以前におけるカナダ日本人移民史の特徴である漁業移民史研究について、近年における北米での研究成果を中心にレビューする。

## II 地域史誌から移民を考える

### 1. 地域史誌からみた日本人移民

多くの移民を受け入れてきたカナダでは、それらの諸相について多種多様な研究が行われてきた。BC州では中国・日本人を中心とするアジア系移民が多く、彼らの創出する景観や居住様式に関する地理学研究もある。それらは、Robinson, J.L.<sup>12)</sup> や McGillivray, B.<sup>13)</sup>、A.J.McDonald, R.<sup>14)</sup>、Mansbridge, F.<sup>15)</sup>、Kluckner, M.<sup>16)</sup> や Reksten, T.<sup>17)</sup> などのように、バンクーバーの形成とその展開に関する研究が中心である。1941年のカナダ・センサスでは、わずか3%に過ぎない日本人移民<sup>18)</sup> については、都市形成に関する地理学的考察ではほとんどふれられていない。ビクトリアではさらに日本人に対する労働の需要が小さかったため、Humphreys, D.<sup>19)</sup> をはじめとする概説書では日本人移民の記述は少ない。カナダ日本人移民の大きな特徴である漁業関係への移民については、BC州の二つの大都市における都市地理学的アプローチからの文献では、ほとんどふれられていないのである。

それでは、カナダ西岸の漁業史研究についてレビューしてみよう。概説書としては、Forester, J.E.<sup>20)</sup>、Brown, A.H.<sup>21)</sup>、Karlner, R. & Heal, S.C.<sup>22)</sup>、Robson, P.A. & Skog, M.<sup>23)</sup> などがある。缶詰の材料となるサケ漁業が中心の当地域において、広く食材とされるタラに注目した Shields, C.E.<sup>24)</sup> も看過できない。とくに、日本人移民が集住したフレーザー川河口に位置するスティーブストン周辺については Stevens, H. & Knight, R.<sup>25)</sup>、Stacey, D. & Stacey, S.<sup>26)</sup> や、Philips, T.<sup>27)</sup> などがある。なかでも、漁業者の生活史へふみこんだ Ross, L.J.<sup>28)</sup> の成果は興味深い。さらに、バンクーバー北方について記した Armitage, D.<sup>29)</sup>、カナダ最北のスキナー川流域のサケ缶詰産業に関する Bowman, P.<sup>30)</sup>、Skogan, J.<sup>31)</sup> などもあげられる。

さらに、日本人が活躍した地域の地誌書を検討する必要がある。後述するように、日本人はBC州各地へと二次的な移住を繰り返したため、さまざまな地方誌を検討しなければならない。とりわけ、バンクーバー島への移住は多く、最初の日本人契約移民が居住した炭鉱集落・カンバーランドの記録も少なくない。例えば Barr, J.N.<sup>32)</sup>、Stephens, D. や Watson, E.G.& Isenor, D.<sup>33)</sup> などがある。その炭鉱の経営者であったダンスミューア家の記録として、Reksten, T.<sup>34)</sup> の報告が詳しい。同地で産出された石炭の積出港であったナナイモについては、一定以上の研究がある。代表的なものとして Peterson, J.<sup>35)</sup>、Bowen, L.<sup>36)</sup>、Norcross, E.B.<sup>37)</sup> などがある。石炭から塩ニシンへと産出物の変遷に注目した Turner, R.D. & MacLachlan, D.F.<sup>38)</sup> の報告は興味深い。しかし、その要因である日本人による塩ニシン製造業については、わずかししか触れられていない。バンクーバー島中央部に位置し、太平洋側からのフィヨルドが迫るポートアルバーニは漁業、隣接するアルバーニは製材業を中心に発展した。いずれも日本人の活躍は見逃せないが、その記述はわずかである<sup>39)</sup>。その理由は、当地域の主たる漁業がニシン漁であり、カナダ漁業界の中心であったサケ缶詰産業があまり展開せず、それを担った日本人も少なかったためと思われる。

このように、バンクーバー島については東岸から中央部の集落が調査され、西岸はほとんどない。それは荒海の太平洋に面して、サケ缶詰産業の展開した大きな集落がないからである。ステイブストンから当地域へも日本人が移住し、新たに漁村を開拓したにもかかわらず、それはほとんど触れられていないのである。また、本土とバンクーバー島との間のジョージア海峡に位置するガリアノ諸島でもニシン漁が行われ、少なくない日本人が活躍した。しかし、離島ゆえにサケ缶詰産業が発達しないため、Freeman, B.J.S.<sup>40)</sup> や Elliott, M.<sup>41)</sup> などの郷土誌ではその記述がほとんどない。それは、バンクーバー沖のボウエン島でも同様である<sup>42)</sup>。つまり、地方誌では、漁業やそこでの日本人の活動については、サケ缶詰産業に関する記述が中心と言わざるをえないのである。そのようななか、バンクーバー島西岸における日本人漁業者の活動を丁寧論じた Peterson, J.<sup>43)</sup> の記録は特筆される。

それに対し、ハイダ・グアイ（クィーンシャーロット諸島）に関する郷土誌は見逃せない。代表的なものとして Douglass, D.& Douglass, R.H.<sup>44)</sup>、Horwood, D.& Parkin, T.<sup>45)</sup>、Dalzell, K.E.<sup>46)</sup> などがある。補鯨基地が立地し、そこで日本人が活躍したので、限られた白人の記憶に残るのであろう。その代表的なものとして、Hagelund, W.A.<sup>47)</sup>、Goddard, J.<sup>48)</sup> や Lloyd, W.R.<sup>49)</sup> などがある。また、そこに一時滞在していた日本人移民の記録もある<sup>50)</sup>。

そのようななか、カナダ漁業界で日本人がもっとも活躍したサケ缶詰作業に関する文献は重要である。缶詰作業に関わった中国人に対して、日本人は刺網漁業によるサケの漁獲に携わっていた。そのため、サケ缶詰工場に隣接して日本人や中国人専用の住宅が設置されていた。それらの様子について Meggs, G.<sup>51)</sup> や Hyde, R.<sup>52)</sup> は、日本人についての記述が厚い。さらに、Campbell, K.M.<sup>53)</sup> と Blyth, G.Y.<sup>54)</sup> はサケ缶詰工場を大縮尺で描写した火災保険図から詳述している。彼らが実証したミクロスケールでの考察は、歴史地理学的に学ぶ点が多い。

## 2. 地図と地名辞典や古写真の活用

地方史を理解するとき、研究書だけが活用されるわけではない。景観を復原し、過去の人々の生活様式を理解する歴史地理学研究において、地図の利用価値は大きい。例えば、地図帳（アトラス）も編んだ Freeman, B.J.S.<sup>55)</sup> や Farley, A.L.<sup>56)</sup> などがあげられる。Macdonald, M.<sup>57)</sup> では、バンクー

バーにおける民族別居住地の変遷図など、移民史研究において興味深い主題図も多く掲載されている。

また、近年のデジタル技術の進展によって、古写真の復刻とその解説からなる編集書が多くみられるようになった。それらから、撮影当時の景観を読み取ることが可能となる。代表的なものとして、Hodding, B.A.<sup>58)</sup> や Vogel, A. & Wyse, D.<sup>59)</sup> などがあり、その他にも絵画や絵葉書の復刻からも読み取れることは少なくない<sup>60)</sup>。近年では Thomson, G.E. & Wolf, J.<sup>61)</sup> のように、日本人移民を対象とした古写真集も現れるようになった<sup>62)</sup>。

なお、日本人が居住していたのは、バンクーバーをはじめとする都市部だけでない。日本人漁業者が集住していたスティーブストンから拡散的・二次的移住をしていた沿岸部、とくにサケ缶詰工場が置かれた遠隔地の様子を知る必要がある。そのときには、地図類だけでなく地名辞典の活用が望まれる。代表的なものとして、BC州全域を網羅した Akrigg, G.P.V. & Akrigg, H.B.<sup>63)</sup>、ハイダ・グワイにおけるネイティブ・インディアンの命名に詳しい Dalzell, K.E.<sup>64)</sup> などがある。

### Ⅲ 日本人の経験と記憶

近年において、自らの経験に基づいた日本人（日系人）による研究書が増えている。まず、戦後のリドレス（保障問題）に関わる Ayukawa, M., Miki, R. & Shibata, Y.<sup>65)</sup> や Kobayashi, C.<sup>66)</sup> の報告がある。さらに、戦時中に敵性外国人として、内陸部の収容所へ強制移動させられた体験を中心に描かれたものが指摘される。これには、Fukawa, M. ら<sup>67)</sup>、Miki, R.<sup>68)</sup> や Kinoshita, S.<sup>69)</sup> などがあげられる。戦後70年が経過し、直接的な体験を聞き取るには残された時間が僅少であり、そのことが近年の出版を増加させているのであろう。

それに対し、戦前の日本人集住地での生活史研究も多い。先駆的な研究として、カナダ・センサスをはじめとする統計資料も活用した Adachi, K.<sup>70)</sup> は極めて重要である。前掲した新保<sup>71)</sup> や佐々木<sup>72)</sup> などの日本人研究者も、彼の成果を数多く引用してきた。パウエル街に関しては、Jesse, Nishihata, J.<sup>73)</sup> や Morita, K.<sup>74)</sup>、最近では Enomoto, R.<sup>75)</sup> や Midge, A.M.<sup>76)</sup> などがあげられる。都市住民以外でも、ガリアノ諸島に属するソルトスプリング島をめぐる Murkami, R.<sup>77)</sup>、フレーザー川中流域のミッションの農業に関する Hashizume, W.T.<sup>78)</sup> などがある。Lang, C.<sup>79)</sup> の報告も、これらのグループに含まれよう。また、広く日本人（日系人）に聞き取り調査し、重要な先駆者・成功者のライフヒストリーを集めた Nakayama, G.G.<sup>80)</sup>、Oiwa, K.<sup>81)</sup> や Kitagawa, M.<sup>82)</sup> などにも注目すべきである。とくに、カナダ日本人移住100周年記念にあたって出版された Takata, T. の編集書<sup>83)</sup> は、日本人移民の記録として重要である<sup>84)</sup>。最近では Takemoto, P.H.<sup>85)</sup> のように、一世だけでなく二世の個人史を編むものも現れている。バンクーバー島では、ビクトリアの日本人会を介した聞き取りをまとめた Switzer, A.L.<sup>86)</sup> や Switzer, G.R.<sup>87)</sup> も同様である。同島東南岸のシュメイナスについては、Hayashi, K. ら<sup>88)</sup> が紹介している。さらに、漁業権と日本人との関わりについては、Hanen, E.A. ら<sup>89)</sup> が興味深い記録を残している。

そのようななか、日本人漁業移民史を再検討する場合、彼らが集住していたスティーブストンはやはり看過できない。6～10月、産卵のため母川に回帰したサケを漁獲するため、ここにはイギリス系カナダ人が経営するサケ缶詰工場が連立した。漁獲にあたって、同地には和歌山県を中心とす

る多くの日本人が集住していた。この様子について、Marlatt, D.<sup>90)</sup> や McNulty, B.<sup>91)</sup> などの白人研究者も論じてきた。なかには、Marlatt, D.<sup>92)</sup> のように日本人（日系人）に焦点を当てたものもある。それに比べて、やはり日本人の経験に基づく記述は厚くて深い。特に、Yezaki, M. の一連の研究は極めて興味深い。サケ缶詰工場に併設された造船所など、カナダ研究者が等閑視する付属施設についても詳細に記述している<sup>93)</sup>。その際、前述した火災保険図が駆使されている<sup>94)</sup>。また日本からの移住後、一定の場所や生業に定まらず、移動や転業を繰り返す日本人にも触れている<sup>95)</sup>。つまり、経験に基づく彼の著作は、カナダ日本人漁業史研究を大きく前進させた。さらに、BC州各地で活躍した日本人漁業者の個人史をまとめることに尽力する日本人グループも現れた<sup>96)</sup>。FUKAWA, S. を中心とする彼らの活動は、カナダ日本人漁業史を検討するときに、貴重な資料となる<sup>97)</sup>。

#### IV “Fire Insurance Plan” と “Debits”

##### 1. 火災保険図の歴史地理学的活用

このように、今世紀に入って大縮尺図の火災保険図活用、そして日本人の経験をふまえた調査によってカナダ日本人漁業史研究は大きく発展した。次に、それに関わる資料を紹介するとともに、これまで紹介されなかった個人レベルの一次資料も援用し、BC州最北端にあるサケ缶詰工場における日本人漁業者の諸相について考察してみよう<sup>98)</sup>。

いま一度、火災保険図の変遷についてまとめると、以下のようになる。火災保険図はイギリス、アメリカ合衆国やカナダで産業革命の進展とともに発行されるようになった。19世紀後半から火災の危険性を査定し、被災後の補償を管理するため、Sanborn MAP & Publish Co. をはじめとする地図出版社は、大縮尺図の“Fire Insurance Plan（火災保険図）”を作成してきた。カナダ西岸のBC州では、1885年にビクトリアやバンクーバーなどから作成が開始された。都市以外でも製材、缶詰や炭鉱などの各種工場とその周辺施設で、同種の地図が作成された。この図には、建物1棟毎に建築物の形状や用途が記号と彩色によって明示されている<sup>99)</sup>。

1924年にBC保険協会が編集・発行した“Plans of Salmon Canneries in British Columbia together Inspection Reports on Each（『BC州サケ缶詰工場図集成』以下、『工場図集成』）”は、当時の主要産業の1つであったサケ缶詰産業を担うサケ缶詰工場毎に、解説ページと火災保険図からなる<sup>100)</sup>。1枚の索引図と目次に続いて、1ヶ所ずつの工場が1,200分の1、または600分の1の縮尺で描かれている。地図の右肩に付された番号が113までであることから、BC州に点在する100以上のキャナリーのうち重要なものだけが採録されていると判断される。その手順として、1897年にBC州南部のフレーザー川流域、1915年には北部のスキーナー・ナース川流域におけるサケ缶詰工場の火災保険地図がすでに作成されていたことが索引図の注釈から推察される。当時、100ヶ所以上あった工場のうち、1923年8月から10月にかけて再調査された<sup>101)</sup>72工場が『工場図集成』に収められたようである。

1880年代までは、わずか3カ所の工場が開設されたにすぎないが、90年代以降になると激増し、それは特定の年に集中した。すなわち1890・96年、ならびに1911・18年には5カ所ずつのサケ缶詰工場が新設されている。この要因のひとつとして、保存食であるサケ缶詰は軍需と密接し、世界的な大戦をはじめとする社会・経済的背景が大きく影響したからである。さらに、5年ごとに大量に

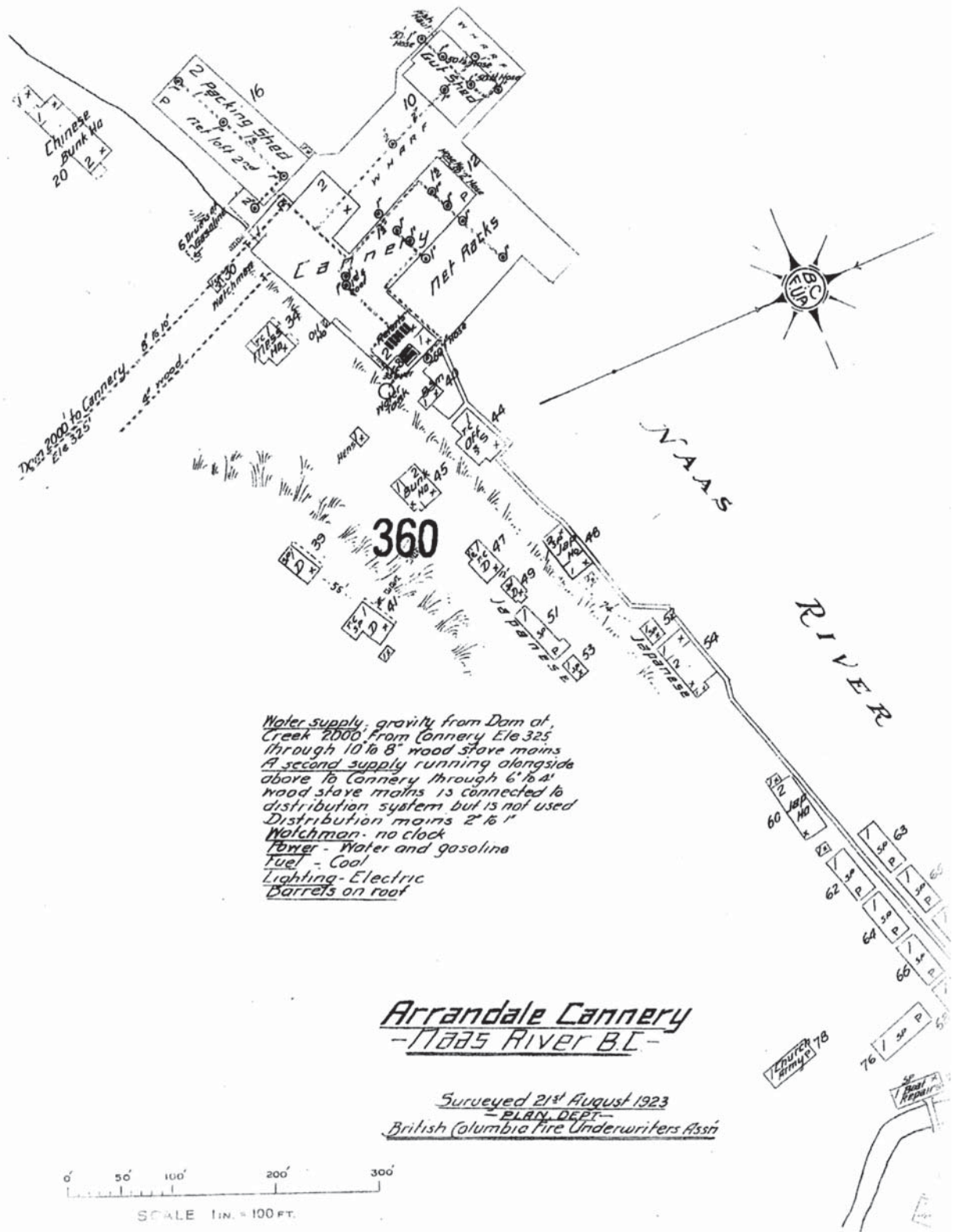
発生するサケの遡上を鑑みた工場の新設も等閑視できない。経営者であるイギリス系 (British) だけでなく、さまざまな民族が工場働いていた。先住民であるインディアンだけでなく、多くの中国・日本人移民も缶詰製造やその材料となるサケ類の漁獲に従事していた。この資料では、出身国・民族毎の実数はわからないものの、日本人は全体の 64% にあたる 44 カ所のキャナリーで雇用されていた。ただし、彼らだけを雇用するキャナリーはなく、インディアンや中国人も従事していた。中国人は日本人を上回る 59 カ所のキャナリーで働き、彼らを雇用する工場は 8 割を超えていた。出身国・民族構成のなかで最多のタイプは、インディアン・中国人・日本人からなる組み合わせで、それは 38 カ所 (55.1%) を示した。

## 2. アランデル・キャナリーにおける日本人漁業者

次に、BC 州最北のナース川下流域にあるアランデル工場の『工場図』、ならびに North Pacific Historic Fishing Village に所蔵された Debits (個人帳簿) から日本人漁業者について説明してみよう<sup>102)</sup>。『工場図』をみると、ナース川沿いに日本人住居が建ち並んでいる (第 1 図)。これらが缶詰工場の東側に並列しているのに対し、インディアンのものは南側、中国人は西側にある。このように、工場では一般的に出身国・民族別に居住区が独立している。従事者について、1941 年の『在加奈陀邦人々名録』<sup>103)</sup> では 21 名、そして、1940 年の帳簿では 29 名の日本人が確認できる。補完的労働力であった日本人は季節ごとの契約であるため、このような差異が生じるのであろう。数種の日本人住所氏名録によれば、和歌山県日高郡三尾出身者が 2 名、その他に 6 名の日高郡出身者を含む和歌山県出身者は合計 15 名を数える。他県では 2 名の山口県出身者ほか、徳島・高知・鳥取・福岡県が各 1 名である。BC 州最北のサケ缶詰工場のひとつであるアランデル・キャナリーでも、「カナダ日本人漁業者の父」工野儀兵衛を先駆者とする多くの和歌山県出身者が活躍していたのである。

従事者毎に 1 枚の大型用紙からなる個人帳簿には、最上段に名前・住所 (所属キャナリー) と国籍の記入欄がある (第 2 図)。姓 (Family Name) はほぼ完全にわかるものの、名 (First Name) については、省略名 (Quickly Name) やアルファベット 1 文字の場合もある。しかし、日本語住所氏名録との併用によって、多くは確認できる。氏名欄には漁業ライセンスを有する “Fisherman” と、それを持たない補助者である “Puller” とが区別されている。この資料の特徴は、漁具を中心とする購買品が左側、魚種別の漁獲量が右側へ日別に適宜記入される点である。つまり、左側からは当時の漁具、とくに網目の大きさなどの異なる漁網の種類が読み取れる。重要なのは、右側から魚種別の漁期、そして複数の漁業者との比較によって、彼らの漁獲に関する能力差が読みとれるのである。

それでは、帳簿から個人別の漁獲数を示してみよう (第 1 表)。主要な魚種はサカイ種 (紅鮭) で、その最盛期は 7 月から 8 月であり、ほぼ 1 ヶ月後にはピンク種 (カラフトマス) の漁獲が多くなる。ただし、それらの漁獲量には個人差がみとめられる。例えば、和歌山県日高郡比井崎出身の清水直七が 745 尾のサカイ種を漁獲しているのに対し、鳥取県出身の西村熊太郎は、その半分にも満たない。ピンク種はほぼ同数であるが、工場での買い取り単価が最も高価な魚種はサカイ種であるため、両者の収入には大きな差が生じる。前者は、多くのカナダ漁業移民を輩出した三尾の隣村の漁村出身である。それに対し、後者は農村の出身であるため、漁撈技術に差異が生じたのであろう。また、検討にあたって年齢、カナダ滞在年やサケ漁撈の経験との関係は重要である。日本人住所氏名録では不明な出身地、さらに年齢や移住年については外務省外交史料館に所蔵された「外国旅券下付表控」を精査すると把握できる<sup>104)</sup>。



第1図 『工場図集成』に収められたアランデル缶詰工場の様子  
 “Plans of Salmon Canneries in British Columbia together Inspection Reports on Each”、1924

**Debits**

Name Fisherman *Shimizu N* Address *Arrandale, BC* Nationality *Jap*

Name Boatpuller \_\_\_\_\_ Address \_\_\_\_\_ Nationality \_\_\_\_\_

24378 G. A. ROEDER, LTD., BOOKBINDERS, PRINTERS AND STATIONERS

DATE	ITEMS	CASH	POSTED SUNDRIES	STORE	BOATS	NETS	GASOLINE VALUE	MEDICAL AID	HOSPITAL	Sundry \$
1940										
	1936 amt	100								177
Mar 9	cpm 5439-5440	442		10 00						
Apr 30	19 Feb advance	157	100 00							
	2 Mth pass + meals	158	15 50							
June 22	cash	CB 164	30 00							
24	cp 4343	459		10 00						
July 5	cp 4559	465		10 00						
25	cp 4834	471		10 00						
28	63.6	4105						5 00		
Aug	6392	4108						5 00		
	cash R 301	CB 180	83 38			14 20				
	Miki acct	177	152 34							
	pull tax	CB 186	5 00							

第2図 アランデル缶詰工場における清水直七の“Debits”の一部

North Pacific Historic Fishing Village 所蔵

第1表 アランデル缶詰工場の個人別漁獲高(1941年)

名前	出身地	漁獲(匹)			
		サカイ	ピンク	その他	計
Asai (浅井)		920	1,665	202	2,787
浅井 富助	徳島県坂野郡撫養町	920	1,603	207	2,730
三木 安雄 (政雄)	和歌山県日高郡比井崎村小浦	806	1,468	244	2,518
Kihara (木原 辰次)	熊本県	724	1,216	128	2,068
武内 (米吉)	和歌山県 (福岡県)	956	935	110	2,001
三木 一太郎	和歌山県日高郡比井崎村小浦	638	1,167	128	1,933
清水 直七	和歌山県日高郡比井崎村	745	1,045	133	1,923
大野 春茂	高知県長岡郡大篠村大桶	872	862	163	1,897
中村 稔	和歌山県	759	1,011	115	1,885
Kihara R		582	1,190	100	1,872
吉田 常吉	和歌山県	750	975	78	1,803
Haminishi (濱西一美)	(和歌山県)	791	877	105	1,773
Maruta K (丸田吉松)	(和歌山県日高郡印南町)	689	948	126	1,763
Miyyabu (Mizuyabu) U (水藪)	(和歌山県三尾村)	821	828	101	1,750
Nakatsu (中津)		690	927	101	1,718
三木 寅之助	和歌山県日高郡比井崎村小浦	807	809	93	1,709
Nashimoto		728	859	101	1,688
滝本 廣助	和歌山県	721	757	102	1,580
Fukaya (深谷力松)	(滋賀県)	646	823	109	1,578
Fukaya (深谷力松)	(滋賀県)	646	823	109	1,578
Machida (町田)		638	876	64	1,578
Fune (船 栄一郎英太郎)	和歌山県日高郡松原吉原浦	506	959	93	1,558
Tateishi (立石建石)		537	841	111	1,489
Nishimura (西村)	鳥取県 (西伯郡)	367	1,011	37	1,415
Nishi H (西)		554	751	81	1,386
Taniguchi (谷口)		708	582	50	1,340

注：出身地については注103)。( )は推定。

North Pacific Historic Fishing Village に所蔵の“Debits”より作成



## V おわりに

日本人移民史研究において、これまで漁業移民については看過されてきた。それは、ハワイでのサトウキビ、アメリカの花弁やブラジルのコーヒー豆などを主たる収穫物とするように、絶対数の多い農業移民を中心に議論が重ねられてきたからである。農業移民に対し、漁業者の特徴的な移住や、その後の行動パターンの違いにはほとんど言及されてこなかった。つまり、移動性が高いこと、生業として海上の漁撈活動も検討する必要があること、腐敗性の高い魚介類をめぐる流通・加工・保存に関わる分業が発生・成立することが看過されてきたのである。さらに、造船業や漁具類の製造・販売など、漁業を補完する生業を任される日本人も多かった。しかし、これらについて、歴史学・社会学を中心とする移民史研究者はほとんど検討してこなかった。その理由は、移住・定着・同化による農業移民から都市住民への展開を中心に検討されてきたからであろう。かかる視点は、地理学からの移民研究においてもほぼ同様であった<sup>105)</sup>。

そこで本稿の最後に、カナダにおける日本人漁業移民史研究について、解決すべき課題を指摘しておきたい<sup>106)</sup>。まず研究対象は、サケ缶詰産業の中心地であったスティーブストンに偏向されてきた。カナダ西岸に70数ヶ所あった各缶詰工場の様子や、それらに従事する日本人漁業者の特徴などの地域性が看過されてきた。そして、缶詰材料に不向きな魚種を漁獲するため、スティーブストンからバンクーバー島などへ移住し、新たに漁村開拓した日本人の活動は見過ごされてきた。また、サケ以外の魚種にふれられることも少なかった。缶詰材料には不適で、食料としてもスコットランド系白人以外にはあまり好まれなかったニシンについては、日本人が独占的に漁獲していたこともあり、排斥史観的な記述が多かった。また、食料よりも燃料として一時的に重要視されたクジラについて、日本人が解体に関わっていた史実は散発的な報告に留まっていた。なお、サケ・ニシン・クジラについて、いずれの場合にも陸域の居住空間だけでなく、海域の生産空間における漁撈活動の把握も必要となる。

このようなカナダ漁業史について、日本人研究者は日本語資料に依存する傾向にあるため、英語で執筆された他民族との関わりには必ずしも目配せがなかった。反対に、日本語を理解することが困難な北米の研究者は、日本人移民の検討は不十分であった。つまり、一次資料に関しては日英両語を駆使し、複数の出身国・民族からなる漁業者の共働システムを理解する必要がある。その場合、大縮尺図の火災保険図からみる缶詰工場や捕鯨基地での居住パターンの分析は、研究対象に合わせて空間スケールを変化させる地理学的分析が極めて有効となる。同様に、日本人が開拓した漁村については、土地所有関係をミクロスケールで考察できる地籍資料が有効となる。そして、日本における輩出地の地域構造も検討しなければならない。その際にも、都道府県レベルではなく集落単位、さらにはイエやヒトにまで焦点をあてる点でも、空間スケールを状況に応じて変化させる地理学的研究は重要となる。

なお、カナダの漁業、とくにサケ缶詰産業に関わる日本人漁業者は渡航前には必ずしも漁村出身の漁業経験者ではなかった。そうすると、これまでのハワイ、アメリカやブラジルへの移民研究で多用されてきた「農業移民」に対して、「漁業移民」という用語も慎重に使用せねばならない。漁獲だけでなく、漁獲物の加工や流通、造船業などへも展開した日本人移民の活動については「漁業」ではなく、「水産業」と称する方が適切と考える。さらに、渡加初期の鉄道工夫や炭鉱夫からサケ缶詰産業を中心とする「水産業」への転業も少ないことも検討したい。このような非漁業関係の契約移

民からの転業も含めると、今後は「カナダ日本人水産史」を総合的に把握しなければならないのである。

本稿では、移民の受容・輩出構造に関する歴史地理学を中心とする日本語研究をレビューする紙幅がなかった。かかる点については、今後の重要な課題としておきたい。

#### [付記]

執筆にあたって、UBC アジア図書館や全カナダ日系博物館をはじめ、文献の収集に関わってご高配をいただいたカナダのみならず厚くお礼申し上げます。本稿は、2015-2019 年度科学研究費基盤研究 (C)「カナダ契約移民の輩出と渡航後の地域的展開をめぐる歴史地理学的研究」(代表・河原典史)と、2013-2017 年度科学研究費基盤研究 (A)「環太平洋における在外日本人の移動と生業」(代表・米山裕)の成果の一部です。

#### 注

- 1) 角井靖一『飛躍日本の移植民地理』、南光社、1935、412 頁。
- 2) 矢々崎典隆『移民農業—カリフォルニアの日本人移民社会—』、古今書院、1993、319 頁。
- 3) 石川友紀『日本移民の地理学的研究—沖縄・広島・山口—』、榕樹書林、1997、607 頁。
- 4) 杉浦直『エスニック地理学』、学術出版会、2011、240 頁。
- 5) ①飯田耕二郎『ハワイ日系人の歴史地理』、ナカニシヤ出版、2003、164 頁。②同『ホノルル日系人の歴史地理』、ナカニシヤ出版、2013、202 頁。
- 6) 学際的に多岐にわたる移民史研究の展望については、以下を参照のこと。①日本移民研究会編『日本の移民研究 動向と文献目録 I』、明石書店、2007、271 頁。②同『日本の移民研究 動向と文献目録 II』、明石書店、2007、352 頁。③神 繁司『移民ビブリアグラフィ—書誌でみる北米移民研究—』、クロスカルチャー出版、2011、363 頁。
- 7) カナダ日本人移民史の概説は、以下の文献による。①飯野正子『日系カナダ人の歴史』、東京大学出版会、1997、217 頁。②佐々木敏二『日本人カナダ移民史』、不二出版、1999、302 頁。③新保満『石をもて追われるごとく』、御茶の水書房、1996、342 頁。④末永國紀『日系カナダ移民の社会史—太平洋を渡った近江商人の末裔たち—』、ミネルヴァ書房、2010、266 頁。
- 8) 和歌山県『和歌山県移民史』、和歌山県、1957、1193 頁。
- 9) カナダ滞在時の調査でこの俗言を知った筆者は、拙稿で紹介に努めてきた。河原典史「初期の日本人移民—近江ソーミル、熊本ヤマ、死ぬよりましかなへレン獲り—」、(細川道久編著『カナダの歴史を知るための 50 章』、明石書店、2017、所収)、300-305 頁。
- 10) 前掲 7) - ①。
- 11) Shibata, Y. : *The Forgotten History of the Japanese-Canadian. Volume 1*, New Sun Books, 1977, 85p.
- 12) Robinson, J. L. : *British Columbia: Studies in Canadian Geography*, University of Toronto Press, 1972, 139p.
- 13) McGillivray, B. : *Geography of British Columbia: People and Landscapes in Transition*, UBC Press, 2000, 235p.
- 14) McDonald, R.A.J. : *Making Vancouver: 1863-1913*, Robert A. J. McDonald, UBC Press, 1996, 316p.
- 15) Mansbridge, Francis. : *Vancouver: Then & Now*, Thunder Bay Press, 2009, 144p.
- 16) Kluckner, M. : *Vanishing British Columbia*, UBC Press, 2005, 223p.
- 17) Reksten, T. : *The illustrated history of British Columbia*, Douglas & McIntyre, 2001, 280p.
- 18) 河原典史「第 2 次世界大戦前のカナダにおける日本人の就業構造」、地理月報 501、2007、1-4 頁。
- 19) Hunphreys, D. : *Building Victoria: Men, Myths and Mortar*, Heritage House Publishing, 2004, 112p.
- 20) Forester, J.E. : *Fishing: British Columbia's commercial fishing history*, Hancock House Pub. Ltd, 1975, 224p.

- 21) Brown, A.H. : *Fishing for a Living*, Harbour Publishing, 1993, 200p.
- 22) Karliner, R. & Heal, S.C. : *Stand by, Let'er Go: The Memoirs of a Commercial Fisherman*, Cordillera Books, 2004, 192p.
- 23) Robson, P. A. & Skog, M. : *Working the Tides: A Portrait of Canada's West Coast Fishery*, Harbour Publishing, 1996, 216p.
- 24) Shields, C.E. : *Salt of the Sea: The Pacific Coast Cod Fishery and the Last Days of Sail*, Pacific Heritage press, 2001, 238p.
- 25) Stevens, H. & Knight, R. : *Homer Stevens: A Life in Fishing*, Harbour Publishing, 1992, 255p.
- 26) Stacey, D. & Stacey, S. : *Salmonopolis: The Steveston Story*, Harbour Publishing, 1994, 152p.
- 27) Philips, T. : *Harvesting the Fraser: A History of Early Delta*, Delta Museums and Archives, 2003, 80p.
- 28) Ross, L.J. : *Richmond: Child of the Fraser*, the Township of Richmond, 1979, 238p.
- 29) Armitage, D. : *Around the Sound: A History of Howe Sound-Whistler*, Harbour Publishing, 1997, 240p.
- 30) Bowman, P. : *Klondike of the Skeena!*, Sunrise Printing, 1982, 176p.
- 31) Skogan, J. : *Skeena : a river remembered*, British Columbia Packers Ltd, 1983, 100p.
- 32) Barr, J.N. : *Cumberland Heritage: A Selected History of People, Buildings, Institutions and Sites 1888-1950*, Corp of the Village of Cumberland, 1997, 258p.
- 33) Stephens, D. & Watson, E.G. & Isenor, D. : *One Hundred Spirited Years: A History of Cumberland*, Ptarmigan Press, 1988, 272p.
- 34) Reksten, T. : *The Dunsmuir Saga*, Douglas and McIntyre, 1991, 290p.
- 35) Peterson, J. : *Black Diamond City: Nanaimo - the Victorian Era*, Heritage House Publishing, 2002, 240p.
- 36) Bowen, L. : *Boss Whistle: The Coal Miners of Vancouver Island Remember*, Oolichan Books, 1982, 247p.
- 37) Norcross, E.B. : *Nanaimo Retrospective : The First Century*, Nanaimo Historical Society, 1996, 169p.
- 38) Turner, R.D. & MacLachlan, D.F. : *The Canadian Pacific's Esquimalt & Nanaimo Railway: The CPR Steam Years, 1905-1949*, Sono Nis Press, 2012, 304p.
- 39) Peterson, J. : *Twin Cities: Alberni-Port Alberni*, Oolichan Books, 1994, 389p.
- 40) Freeman, B.J.S. : *A Gulf Islands Patchwork: Stories of Canada's Beautiful Western Islands*, Gulf Islands Branch B.C. Historical Association, 1961, 192p.
- 41) Elliott, M. : *Mayne Island & the outer Gulf Islands: A history*, Gulf Islands Press, 1984, 152p.
- 42) Hanen, E.A., Kearney, J., Murray, B. : *Bowen Island Reflections*, Bowen Island Historians, 2004, 160p.
- 43) Peterson, J. : *Journeys: Down the Alberni canal to Barkley Sound*, Oolichan Books, 1999, 395p.
- 44) Douglass, D. & Douglass, R.H. : *Exploring the North Coast of British Columbia: Blunden Harbour to Dixon Entrance, Including the Queen Charlotte Islands, 2nd Ed.*, Fine Edge productions, 2002, 591p.
- 45) Horwood, D. & Parkin, T. : *Haida Gwaii: The Queen Charlotte Islands*, Heritage House Publishing, 2000, 248p.
- 46) Dalzell, K.E. : *The Queen Charlotte Islands Vol. 1: 1774-1966*, Harbour publishing, 1968, 340p.
- 47) Hagelund, W.A. : *Whalers No More: A History of Whalers on the West Coast, Madeira Park, B.C.*, Harbour Publishing, 1987, 205p.
- 48) ① Goddard, J. : *A Window on Whaling in British Columbia*, Premier Printing Ltd., 1997, 11p. ② Goddard, J. : "The Japanese Experience: In Western Canadian Whaling", *Journal of Pacific Maritime History* 37-3&4, 2001, 38-47p.
- 49) Lloyd, W.R. : *On the Northwest: commercial whaling in the Pacific*, UBC Press, 1995, 452p.
- 50) Kiyooka, R., Marlatt, D. : *Mothertalk: Life Stories of Mary Kiyoshi Kiyooka*, New West Press, 1997, 191p.
- 51) Meggs, G. : *Salmon: The decline of the British Columbia fisheries*, Douglas & McIntyre Ltd, 1995, 274p.

- 52) Hyde, R. : *The Sockeye Special: The Story of the Steveston Tram and Early Lulu Island*, Friesens Corporation, 2011, 82p.
- 53) Campbell, K.M. : *Cannery Village: Company Town*, Trafford Publishing, 2004, 337p.
- 54) Blyth, G.Y. : *Salmon Canneries: British Columbia north coast*, Oolichan books, 1991, 180p.
- 55) Freeman, B. J. S. : *A Gulf Islands Patchwork: Stories of Canada's Beautiful Western Islands*, Gulf Islands Branch B.C. Historical Association, 1961, 192p.
- 56) Farley, A.L. : *Atlas of British Columbia*, UBC Press, 1979, 136p.
- 57) Macdonald, B. : *Vancouver: A Visual History*, Talon Books, 1992, 84p.
- 58) Hodding, B.A. : *North Cowichan: A history in photographs*, Corporation of the District of North Cowichan, 1998, 111p.
- 59) Vogel, A. & Vancouver, D.W. : *A History in Photographs*, Altitude Publishing, 1993, 111p.
- 60) ① Thirkell, F. & Scullion, B. : *British Columbia 100 Years Ago: Portraits of a Province*, Heritage House Publishing, 2002, 176. ② Molyneux, G. : *British Columbia: An Illustrated History*, Raincoast Books, 2002, 175p. ③ Grant, P. : *Wish You Were Here: Life on Vancouver Island in Historical Postcards*, TouchWood Editions, 2002, 79p.
- 61) Thomson, G.E., Wolf, J. : *Shashin: Japanese Canadian Studio Photography to 1942*, Japanese Canadian National Museum, 2005, 96p.
- 62) 筆者も日本人が残した古写真や、移民政策に関わって発行された写真帖を復刻・解説書を出版している。  
①河原典史編『カナダ日本人漁業移民の見た風景—前川家「古写真」コレクション—』、三人社、2013、197頁。  
②河原典史編『カナダ日本人移民の子供たち—東宮殿下御渡欧記念・邦人児童写真帖—』、三人社、2017、297頁。
- 63) Akrigg, G.P.V., Akrigg, H.B. : *British Columbia Place Names*, UBC Press, 1997, 304p.
- 64) Dalzell, K.E. : *The Queen Charlotte Islands Vol. 2: Places and Names*, Harbour Publishing, 1973, 472p.
- 65) Ayukawa, M., Miki, R., Shibata, Y. : *Reshaping Memory: Owning History Through the Lens of Japanese Canadian Redress*, Japanese Canadian National Museum, 2002, 84p.
- 66) Kobayashi, C. & Miki, R. : *Spirit of Redress: Japanese Canadians in Conference*, JC Publications, 1989, 148p.
- 67) Fukawa, M., Beardsley, R., Kiloh, B., Per, R., Turner, J. and Whittingham, M. : *Internment and Redress: The Japanese Canadian Experience*, Queen's Printer for British Columbia, Co, 2005, 138p.
- 68) Miki, R. : *Race and Sport in Canada: Intersecting Inequalities*, Canadian Scholars' Press, 2012, 300p.
- 69) Kinoshita, S. : *Shikataganai: It Can't Be Helped*, FriesenPress, 2014, 143p.
- 70) Adachi, K. : *The Enemy That Never Was: A History of the Japanese Canadians*, McClelland and Stewart limited, 1976, 456p.
- 71) 前掲 7- ②。
- 72) 前掲 7- ③。
- 73) Nishihata, J. : *Powell Street Diary*, Tombo Communications, 2017, 103p.
- 74) Morita, K : *Powell Street Monogatari*, Live Canada Publishing Ltd., 1988, 149p.
- 75) Enomoto, R : *Honouring Our People: Breaking the Silence*, Greater Vancouver Japanese Canadian Citizens' Association, 2016, 260p.
- 76) Ayukawa, M.M. : *HIROSHIMA IMMIGRANTS IN CANADA 1891-1941*, UBC Press, 2007, 208p.
- 77) Murakami, R. : *Ganbaru: the Murakami Family of Salt Spring Island*, Library & Archives Canada Cataloguing, 1992, 40p.
- 78) Hashizume, W.T : *Japanese Community in Mission: A Brief History, 1904-1942*, William T. Hashizume, 2002, 129p.
- 79) Lang, C : *O-bon in Chimunesu: A Community Remembered*, Arsenal pulp prss, 1996, 287p.
- 80) Nakayama, G.G. : *Issei: Stories of Japanese Canadian Pioneers*, NC Press, 1984, 217p.

- 81) Oiwa, K. : *Stone Voices: Wartime Writings of Japanese Canadian Issei*, Vehicule Press, 1991, 205p.
- 82) Kitagawa, M. & Miki, R. : *This Is My Own: Letters to Wes and Other Writings on Japanese Canadians, 1941-1948*, Talonbooks Ltd, 1985, 302p.
- 83) Takata, T. : *Nikkei Legacy : The Story of Japanese Canadians from Settlement to Today*, N C Press, 1983, 176p.
- 84) この編者である Takata, T. の呼びかけに応じて、1907 年に東京移民合資会社の契約移民のリーダーとしてカンバーランドに移住した熊本県玉名郡鍋村出身の角口泰一郎は、当時の体験を寄稿している。その原著の一部は、次の拙稿に収められている。前掲 62) - ②。
- 85) Takemoto, P.H. : *Nisei Memories: My Parents Talk About the War Years*, University of Washington Press, 2006, 237p.
- 86) Switzer, A.L. : *Gateway to Promise: Canada's First Japanese Community*, Ti-Jean Press, 2012, 380p.
- 87) Switzer, G.R & Switzer, A.L.: *Sakura in Stone: Victoria's Japanese Legacy*, Ti-Jean Press, 2015, 92p
- 88) Hayashi, K., Kanno, F.F., Tanaka, H., Tanaka, J., Tides, C.: *Vanishing Voices of Nikkei Fishermen and Their Families*, the Nikkei National Museum & Cultural Center, 2017, 208p.
- 89) Hanen, E. A., Kearney, J., Murray, B.: *Bowen Island Reflections*, Bowen Island Historians, 2004, 160p.
- 90) Marlatt, D. : *Steveston*, Ronsdale Press, 2001, 107p.
- 91) McNulty, B. : *Steveston: A Community History*, Bill McNulty, 2011, 137p.
- 92) Marlatt, D : *Steveston Recollected : A Japanese-Canadian History*, Daphne Marlatt, 1975, 104p.
- 93) Yesaki, M. : ① *Steveston Cannery Row: An Illustrated History*, Mitsuo Yesaki, 1998, 128p. ② *A Historical Guide to the Steveston Waterfront*, Mitsuo Yesaki, 2002, 34p. ③ *Watari-dori: (Birds of Passage)*, Peninsula Pub. Co., 2005, 175p.
- 94) 前掲 53) ・ 54)。
- 95) Yesaki, M. : *Sutebusuton : a Japanese village on the British Columbia coast*, Peninsula Pub, 2003, 148p.
- 96) ① Fiset, L. & Nomura, G.M. : *Nikkei In The Pacific Northwest: Japanese Americans & Japanese Canadians In The Twentieth Century*, University of Washington Press, 2005, 348p. ② Fukawa, M. : *Nikkei Fishermen on the BC Coast: Their Biographies and Photographs*, Harbour Publishing, 2007, 208p. ③ Fukawa, M. : *Spirit of the Nikkei Fleet: BC's Japanese Canadian Fishermen*, Harbour Publishing, 2009, 256p. ④ Hayashi, k., Kanno, F.F., Tanaka, H., Tanaka, J., Tides, C. : *Vanishing Voices of Nikkei Fishermen and Their Families*, the Nikkei National Museum & Cultural Center, 2017, 208p.
- 97) ただし、日系 3 世以降になると、日本語資料の読解が困難なことも少なくないようである。
- 98) 河原典史「サケを運んだ薩摩人－カナダのサケ缶詰工場における日本人移民史－」、立命館文学 650、2017、123-138 頁。
- 99) カナダにおける火災保険図の成立とその後の展開については、以下の文献による。① Woodward, F.M.: *Fire Insurance Plans and British Columbia Urban History: A Union List*, BC Studies 42, 1979, 13-50p. ② Oswald, D.L. : *Fire Insurance Maps: Their history and Applications*, Lacey Press, 1997, 102p. ③ Dubreuil, L. & Woods, C.A.: *Catalogue of Canadian fire insurance plans 1875-1975*, *Occasional Papers of the Association of Canadian Map Libraries and Archives* 6, Association of Canadian Map Libraries and Archives, 2002, 500p. 筆者はこれらを展望し、その歴史的地理学研究の活用方法を以下に報告した。河原典史「カナダ・ブリティッシュコロンビア州における火災保険図をめぐる基礎的研究」、財団法人国土地理協会平成 23 年度学術助成研究、2011、95-111 頁。
- 100) 『工場図集成』は、ブリティッシュ・コロンビア大学の特別資料室 (Rare Books & Special Collections Precision) に所蔵され、1992 年には 163 枚のマイクロフィルムに複写されている。この複写版はモノクロであるが、缶詰工場の様子と、そこに従事する日本人について読解できることは少なくない。
- 101) サケが産卵のために遡上するのは 6 ～ 10 月である。この、いわゆる「サーモン・シーズン」の繁忙期を外して調査が行われている。
- 102) 一部については、次の拙稿で報告した。河原典史「Returns (報告書) と Debits (個人別帳簿) にみ

るサケ缶詰産業と日本人漁業者」、立命館言語文化研究 20-4、2009、77-105 頁。

103) ①中山訊四郎『加奈陀同胞発展大鑑 附録』、1922、②吉田龍一編『加奈陀在留邦人々名録』、1926、1-173 頁。③大陸日報社刊『在加奈陀邦人々名録』、1941、1-204。(佐々木敏二編『カナダ移民史資料 第6巻』、不二出版、2000、511 頁。)

104) この資料の歴史地理学的な活用については、別稿を改めたい。

105) これまでの研究の枠組みをふまえ、グローバルな歴史的展開のなかで、より広域的なネットワークから移民を捉える方法が模索されはじめている。杉浦直「移民・植民の歴史地理－その論点と課題（シンポジウム総括にかえて）－」、歴史地理学 45-1、2003、111-117 頁。

106) 以下の課題について、すでに筆者はいくつかの拙稿を発表してきた。本稿ではそれらを羅列的に紹介せず、機会を改めて整理し、批評をおおぎたい。

(本学文学部教授)

## Perspectives and Issues Concerning Research of Japanese Fisheries History in Canada

by  
Norihumi Kawahara

This paper provides a review on the perspectives from which research on the history of Japanese fisheries immigration to Canada before WWII has been accumulated, mainly focusing on recent research results from North America.

In Canada, which has accepted many immigrants, diverse studies on the various aspects thereof have been accumulated. Many Asian immigrants such as Chinese and Japanese people live in British Columbia on the western coast, and there are a considerable number of geographical studies on the landscapes and living styles they create. However, in the literature dealing with the two large cities of British Columbia from an urban geography approach, immigrants to the fishing industry, who were a significant feature of Japanese immigration to Canada, are hardly mentioned.

Therefore, there is a need to consider topographical material from areas in which Japanese people played an active role. At the time, Japanese immigrants repeatedly carried out secondary immigration to various locations in British Columbia. However, Japanese people do not appear in the topographical material until the canned salmon industry, the main industry of Canadian fisheries, develops. Using the *Fire Insurance Plan*, a large-scale map, K.M. Campbell and G.Y. Blyth provide an commentary on Japanese fishermen who lived in salmon canneries.

Life history studies on group living areas of Japanese people mainly involved in fishing, especially those concerning Steveston, are numerous. In particular, descriptions based on Japanese people's experiences are dense and deep. Of particular interest are M. Yezaki's various studies which make full use of the *Fire Insurance Plan*. Yezaki also provides accounts of accessory facilities such as shipyards annexed to salmon canneries. He also mentions Japanese people who, after having immigrated, did not stay in a fixed location or job and repeatedly moved and changed jobs. In addition, the work of S. Fukawa et al., which is a compilation of personal histories of Japanese fishermen who were active in various locations in British Columbia, will prove to be a valuable source when considering the history of Japanese fishing in Canada. In other words, recent studies by Japanese-Canadians have greatly advanced research on Japanese fisheries history in Canada. For furthering historical-geographical research on Japanese fisheries history in Canada, it is necessary to gain an understanding of the cooperative system consisting of fishery workers from multiple ethnicities and national origins from primary sources in both Japanese and English.